

一般貸切旅客自動車運送事業におけるワンマン運行可能地域の明確化に関する調査報告 【概要版】

1. 業務目的

平成 24 年 4 月に発生した関越道高速ツアーバス事故を受け、長距離運行の際の運転者の過労運転を防止するため、平成 25 年 8 月より、高速・貸切バスの交替運転者の配置基準（以下、配置基準）を適用した。配置基準適用後、ワンマン運行で日帰りツアーのできる地域・観光地が曖昧となり、地域・観光地によっては、ワンマン運行を見合わせている地域があるとの声が上がっている。本調査の目的は、ワンマン運行による日帰りツアーが可能な地域を検証し、「見える化」することで、貸切バス事業者や旅行業者等が利用者に対して、安全・安心な日帰りツアーを提供することである。

2. 配置基準適用後の日帰りツアーの運行実態に関する調査結果の整理

本調査では、ワンマン運行可能地域の検証を目的として、東京都心部から片道約 240km、東京西部（相模原・八王子）から片道約 200km、名古屋中心部（中京圏）から片道約 200km に位置する長野県南信地域の駒ヶ根・諏訪の両地域に着目した。

① 自治体の認識・取組み（地元自治体、観光協会へのヒアリング）

- 平成 26 年 7 月以降の中央アルプスに訪れる団体ツアーバスは、天候に恵まれなかった事もあり例年と比べて 2～3 割は減っている。（駒ヶ根市）
- 一部の土産物店から、貸切バス運賃の値上げと運行配置基準の適用により観光客の入込が減少したと報告を受けている。（諏訪市）
- 駒ヶ根市では平成 25 年度に第 4 次総合計画を策定し、リニア中央新幹線・三遠南信自動車道開通による交流人口を 120 万人増やすこととしている。この一環として観光客に対してキャンペーンの実施、企画を行う旅行業者にインセンティブの付与、当該地域に訪れたバス車両に対する行政支援を検討中である。（駒ヶ根市）

② バス事業者の認識（大手貸切事業者 3 社へのヒアリング）

- 配置基準適用前のワンマン運行による日帰りツアーの人気地域・観光地等においては、適用後も継続的にツアーを実施している。（長野南信地域を含む）
- 配置基準の適用後の限界到達地域・観光地は、配置基準適用前と同様な発地（新宿、池袋等）から同様の着地（那須、草津、諏訪地域等）であり、行き先に取り立てて変化はない。
- 一部の事業者では配置基準適用前から独自の社内規制（配置基準適用後の基準と同水準）を設けて取り組んでいるため、日帰りツアーを運行する観光地に変化はない。



図 町田駅・名古屋駅を中心とした配置基準後の運行可能範囲

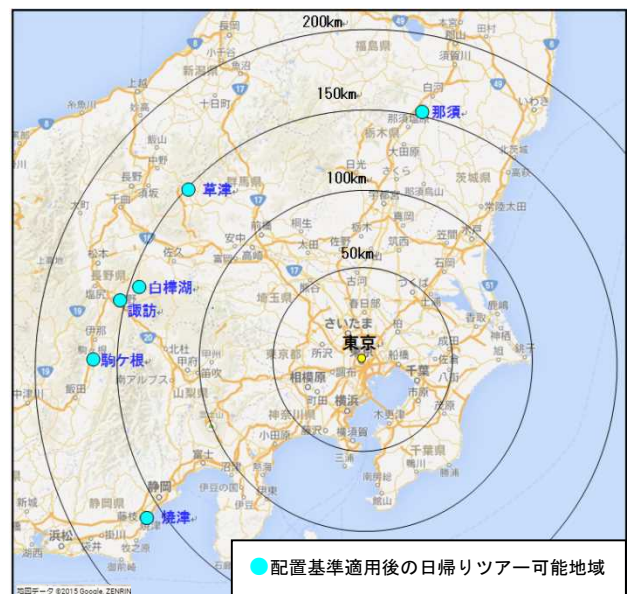


図 ヒアリングで回答のあった配置基準適用後の運行可能地域

3. ワンマン運行可能地域の抽出、特性分析及びツアー行程の作成

現行の旅行代理店等より提供されている日帰り

表 既存ツアー（38件）の整理
※2014年10月初旬～中旬インターネット掲載のツアー

バスツアー情報をインターネット等によって収集し、これを参考にツアー行程を作成した。

駒ヶ根へのツアー行程は、首都圏西部地域である東京都町田市（町田駅付近）を発地とし、中央自動車道を使用した後、駒ヶ根市内の観光地を回るものとした。

諏訪へのツアー行程は、名古屋駅を発地とし、中央道を使用した後、市内の観光地を回るものとした。

立寄り観光施設数（平均）	3.3箇所
ツアー開始時刻（平均）	7:33
ツアー終了時刻（平均）	19:16
ツアー時間（平均）	11時間43分
主な立ち寄り先	
（駒ヶ根地域）千畳敷カール、駒ヶ根ファームス、ピアンテさくら亭 （諏訪地域）蓼科、蓼科チーズケーキ工房、諏訪大社	

町田駅(8:10発) 中央道 ドライブイン(11:10～12:10 昼食) 駒ヶ根ふるさとの家(12:30着) 森と緑のアウトドア体験広場(12:55着) 光前寺(13:05着) こまくさの湯(12:55着・発) 徒歩移動(首の台バスセンター等を視察) 駒ヶ根ファームス着(13:45着 観光協会ヒアリング(30分)15:00発) 中央道 町田駅(18:00着)

名古屋駅(7:30発) 中央道 横谷峡(11:30着 11:45発) ドライブイン(12:15着 昼食(50分) 13:15発) 諏訪大社 上社上宮(13:25着 13:35発) SUWA ガラスの里(13:50着 諏訪観光連盟 諏訪市観光課ヒアリング 15:00発) 中央道 名古屋駅(18:30着)

図 実証運行ツアー（上：町田駅～駒ヶ根地域 下：名古屋駅～諏訪地域）

表 実証運行ツアー結果

発着地	町田⇄駒ヶ根	名古屋⇄諏訪
所要時間	11時間37分	11時間20分
立ち寄り先 SA、観光施設	談合坂SA（上り・下り）、諏訪湖SA（上り・下り）、ドライブイン、駒ヶ根ファームス、駒ヶ根ふるさとの家	恵那峡SA（上り・下り）、駒ヶ岳SA（上り）、横谷峡、ドライブイン、SUWA ガラスの里
高速道路における渋滞箇所	東名道（横浜町田 IC 付近）、中央道（八王子 JCT 付近）	中央道（恵那峡SA付近）

貸切バス事業者の運行協力の下、町田発、名古屋発共に10月中旬の休日に行った。

4. 実証実験の実施結果の整理

【町田⇄駒ヶ根】

首都圏方面からのアクセスでは中央道における（八王子 JCT 付近）混雑等があり、到着・滞在時間が大幅にずれることが明らかになった。駒ヶ根地域内の滞在箇所数も当初より縮小したが、本調査で地元観光協会とヒアリングを行った時間（1時間45分）を含めると、立ち寄り箇所を増やすことは可能であるため、駒ヶ根地域は日帰りワンマン運行が可能であることが明らかになった。

【名古屋⇄諏訪】

紅葉の行楽シーズンだったため、帰りの運行で中央道（恵那峡 SA 付近）の混雑等が発生し、帰着時間にずれが生じた。観光地内での行程は、当初の運行計画とほぼ変わらなかったことより諏訪地域への日帰りワンマン運行も可能であることが明らかになった。

5. 観光地域の自助努力による観光客誘致

大井川鐵道（静岡県）では、鉄道利用者の減少に直面していたところであったが、「きかんしゃトーマス」に扮したSLを導入した後は、SL乗客数が大幅に増加するなどの効果を挙げている。バスツアーに関しても、ツアーマン運行での日帰りツアーや宿泊ツアーでも採算がとれるほどの人気である。さらに宿泊ツアーは、地元の観光関連施設、宿泊施設への波及効果をもたらしている。

6. 調査のまとめ

休日の混雑時期において実施した実証運行では、渋滞等の影響を受けたものの、ワンマン運行による日帰りツアーの実施は十分に可能であることが明らかになった。また、立ち寄り箇所を工夫することで、より余裕のあるコース設定も可能である。

一方で、貸切バス事業者からのヒアリングによると、配置基準適用前から運転者の運行距離等についての社内規制を設けるなど、配置基準適用後においても日帰りツアーを運行する観光地に変化はないということであったが、そのような社内規制を設けていない貸切バス事業者は、配置基準の適用により、どこまでの地域のバスツアーであれば配置基準内に収まるか、その限界を明確に把握されていない可能性が考えられる。

駒ヶ根・諏訪地域は山岳観光、農産物などの魅力が多くあるため、観光需要は高いと考えられるが、観光客増加の底上げを図るには、観光資源の多い駒ヶ根・諏訪地域の更なる魅力向上に向けた取り組みを行うことが必要であり、例えば、農村体験などの体験型観光の促進を図り、宿泊化へつなげていくことも必要であると考えられる。